



子育てチャンネル

ももんが森の大きな木

私が生まれ育ったのは大阪ですが、道内に住もうと考えた旭川で暮らし始めました。それから東川を見に来ると、仕事、生活の拠点はここだと確信し、工房にできる納屋と住宅がある物件を探し始めました。何人かの方のお世話になり、縁あってこの町に住むことができました。25年前、息子が小学校3年生、娘が1歳になる前でした。

私の仕事は木工芸で、ここは材料、木工機器などが入手しやすく、友人に手伝ってもらって改造した工房や工房から見える風景など、十分に満足していくものでした。私の希望での引っ越しでしたが、連れ合いさん（妻）は子供を通じてすぐに友人をつくることができ、地域に馴染んでいきました。

息子は第二小学校への通学初日、2・9キロメートルの

道のりを歩いて帰ってきて「思ったより近かった。友達ができたと、雪まみれになっていて、しっかりと道草をしてきたようです。」

娘は池に

落ちたり、木に登ったり、両手いっぱいアマガエルを捕まえて育ちました（自宅の敷地内に湧水の池があり、最深部80センチメートルほど。水温はセ氏9〜12度と冷たい）。わが家には甥（おい）や姪（めい）たち、友人の子供たち、そして息子や娘の友人たちが泊りがけで頻繁に遊びにやってきました。

池に落ちたり木に登ったり、



アマガエルを捕まえたり、夜暮場まで肝試しに行ったり…。私が作ったソリで家の周りの坂を滑ったり、ケンをすることもある。忘れません。この子供たちに引張られ、

親たちも真剣に遊ぶようになりました。今、息子は札幌、娘は東京と東川を離れて暮らしています。息子はキャンプを楽しんでいますし、娘ははずしやニンジン漬けを食べたがります。近ごろは、甥の子供や友人の子供が泊りがけで遊びに来ます。池でカヌーに乗ったり、アマガエルを両手いっぱい捕まえています。

この写真は今製作しているものの一部で、この広報の出るころには幼児センター「ももんがの家」の壁に取り付けられているでしょう。

幅5・5メートル、奥行き35センチメートルの壁面ディスプレイと吹き抜け空間に吊り下げるモビールとで構成する作品の一部で「ももんが森の大きな木」と名付けました。作品の子供たちには、私の子供やわが家に遊びに来た子供たちが投影されています。

ノミ跡を残してある木の子供たちは多くの子供たちに触れてもらいたがっています。もちろん大人にも。どうぞ町民の皆さん、「ももんがの家」に足を運んでください。

早見工房

（木エクラフト作家）

早見 賢二